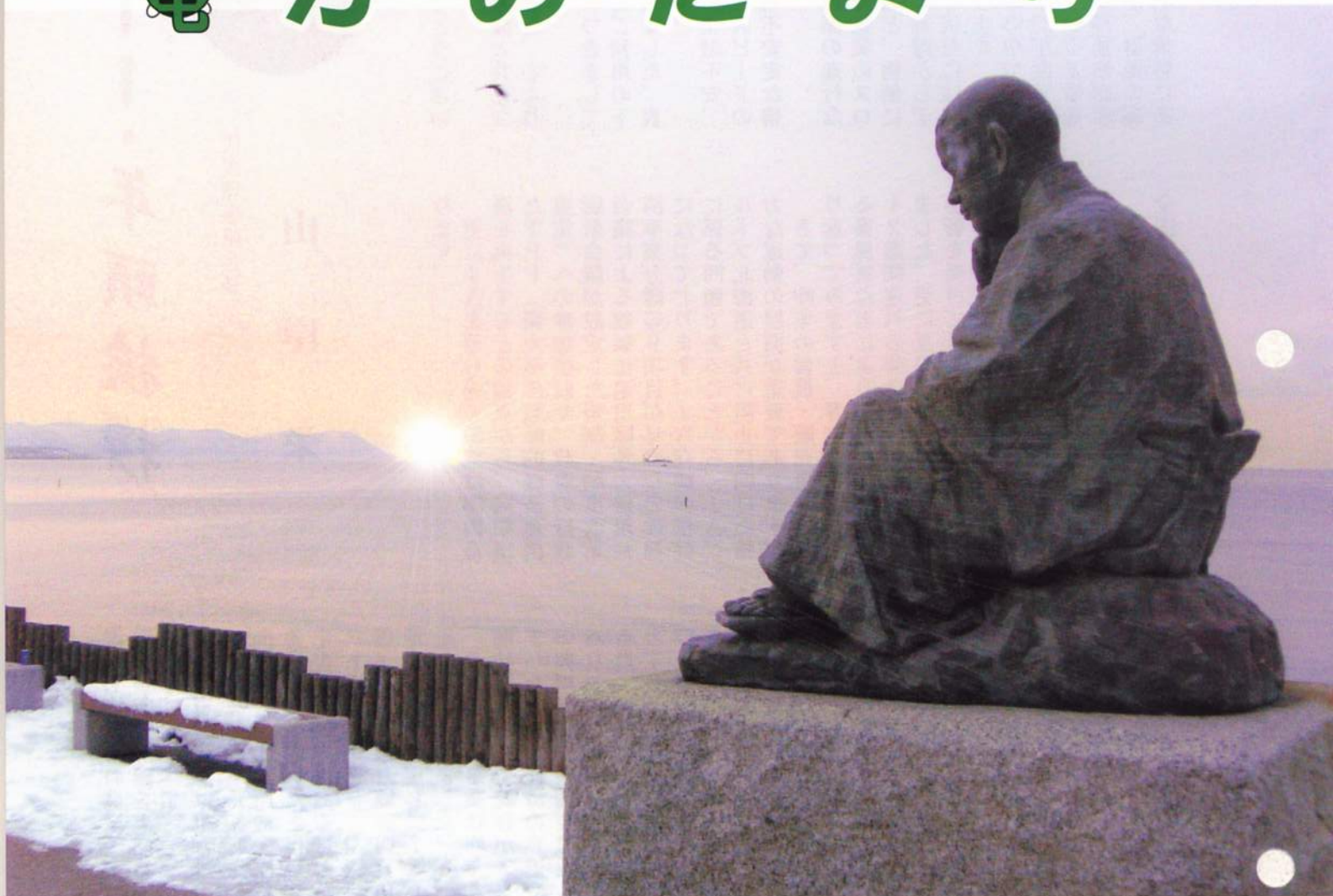




# か・め・だ・よ・り



「潮かをる 北の浜辺の砂山の かの浜薔薇よ 今年も咲けるや」  
はまなす

啄木記念小公園

# 賀春

平成23年 元旦

## 新春号

2011 1月1日発行

函館市亀田農業協同組合



- 新年挨拶
- 役員視察研修報告 他

# 2011・年頭挨拶



代表理事組合長

## 山岸 栄一

新年明けましておめでとうございます。

平成23年の新春をご家族と共に一つがたく迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の農協事業運営につきましては組合員各位のご理解とご利用の下、無事に終えることが出来ました。衷心より感謝申し上げます。

世界経済はEU諸国の金融不安、米国・中国等経済の拡大スピードの減速や通貨安競争により不安定な情勢にあります。

我が国経済も急激な円高の進行などにより、昨年夏場以降景気のスロウダウンが意識されるなど、物価に關しては需給ギャップの乖離からデフレ脱却時期を見通せる状況にはなく、厳しい経済情勢にあります。

国内政治もねじれ現象の中で補正予算は成立したものの、23年度予算は経済対策と財政再建という矛盾を抱えた中で、農家戸別所得補償制度の拡充を掲げていますが、財源の裏付けなど、極めて不透明な情勢にあ

ります。

更にJAを取り巻く環境は国内経済を再生するとの論点から、突出したTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）への参加検討や、政府の行政刷新会議が設定した規制・制度改革会議による独禁法適用除外・信用共済事業分離等9項目が見直しの候補になっております。JA存続の根幹に係る問題であることから、JAグループ北海道と共に阻止に向けた強力な運動の展開が重要であります。

さて、昨年の営農・販売事業を振り返ってみますと、春先の数度に亘る暴風雪などにより、例年に比べ1〜2週間遅れの蒔き付け作業となりました。更に夏場の記録的な猛暑の影響を受けて低温障害・高温障害・病害虫発生等で品質収量共に大きな影響を受けたところであります。組合員各位には栽培管理・収穫作業にあたっては精神的・肉体的にご苦労が多かったことと存じます。

一方、販売事業は前述の影響から全国的に品薄状態となり、好調な市

況にも支えられ農産・畜産とも販売取扱金額は計画を上回る達成が出来るました。

生産資材事業は組合員のコスト意識の高まりから取扱金額は減少傾向にあります。原油・原材料価格の急騰は落ち着いたとはいえ、依然高止まりの傾向にあることから生産コスト圧縮対策として、肥料・農薬・種子の予約取り纏め購買に対して、期中利用高割戻し（750万円）実施させて戴きました。

金融・共済事業は昨年4月から金融共済部として統合がスタート致しました。地方経済の衰退や人口減少の環境下、資金需要は乏しい情勢にありますが、リスク管理の強化と組合員・地域利用者の掘り起こしに注力すると共に機関保証付きローン及び医療保障保険の伸長に努めて参りました。

燃料事業は㈱ジェイエイ・エネルギー販売に移管して二年以上経過致しましたが組合員・地域利用者の支持を得て取扱数量は安定的な推移を示しております。しかし、価格競争は熾烈を極めていることから、利用者満足度の向上に向け会員制度導入とサービスの質の改善に取り組んで参りました。

また、ホクレン油機サービス函館支店が行って参りました農業機械整備事業と車両検査事業は、㈱ジェイエイ・エネルギー販売が事業継承し、本年1月1日より事業開始となりました。新たな事業の取り組みとなり

ますので、特段のご利用を賜りますようお願い申し上げます。

今年度は第9次農業振興計画最終年であり、生産農家の高齢化・農家戸数の減少・遊休農地の拡大など構造的課題に対処するため、コントラクター事業の調査研究に取り組み参りました。今年度は一部モデル事業を立ち上げ実施に向けて参ります。

施設整備の関係では人参生産部会との協議を経て、建物の新築と貯水タンクの更新、選果機の大改修に着手する運びとなりました。利用料負担緩和策として原価償却費の52%をJAが負担することで決定しましたので生産農家各位には人参作付面積の確保にご理解とご協力をお願い致します。

結びに、政府の食と農業再生本部は競争力強化に向けて基本方針策定に向け論議を始めました。しかし、国内での規模拡大・効率化には限界があり大陸農業と同一で論じることがあり大論であります。食料自給率40%の我が国が経済効率性を追い求めこれ以上海外に依存することは極めて危険な行為であります。

JAグループの一員として協同運動に参画し、国民合意に向けた運動を粘り強く展開して参りますのでご理解とご支援をお願い致します。

本年もご健勝で豊稔の出来秋を迎えることが出来まことを心からご祈念申し上げます。年頭に当たってのご挨拶と致します。

# 年頭にあたり



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成23年の新春をご家族とともに迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昨年の北海道農業は、まさに異常気象にみまわれた1年でありました。春先の天候不順が一転し6月には好天に恵まれ、豊作の出来秋に大きな期待を高めましたが、夏以降、猛暑・豪雨等により、作目全般にわたり総じて収量低下や品質低下が見られ、生産者・JAの努力が報われない厳しい出来秋となりました。

また、北海道農業は、農業者の高齢化と担い手の不足など、地域農業の構造変化が続く中で、農地制度改革や食料・農業・農村基本計画の見直し、平成22年の米モデル対策を経て平成23年は水田経営に加え畑作経営で実施される戸別所得補償制度など農業政策は大きな転換期を迎えております。

特にTTP（環太平洋連携協定）に関して、菅首相の所信表明演説での唐突な参加検討の表明以来、国

内は激震が走り大きく揺れています。JAグループ北海道は、この問題が北海道にとって重大な事柄であり、経済団体・消費者団体などとも連携し、JAグループ北海道をはじめ漁業・林業に加え、道経連・道消費者協会等56団体共催のもとにオール北海道で昨年11月12日『地域社会のあり方等「この国のかたち」を問う道民総決起大会』を開催し、1,700人ももの参集をいただき「交渉参加の断固阻止」を訴えました。大会アピールをうけ、直ちに「北海道農業・農村確立連絡会議」として、北海道知事らとともに、政府や与野党に「農業者はしつかり生産し、国民にとつて大事な食料を供給する」というこの基本を崩さないよう強く要請いたしました。

さて、本年は『協同の力で築く「あすの食をささえる北海道農業」』を主題に開催した第26回JA北海道大会の実践2年目を迎えます。この決議事項である「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」は、国民の命の根源である食料生産を担う組合員が安心して農業経営に従事し、さらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんに北海道農業を応援していただくための取り組みです。

また、JA経営では「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」の実践によって、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることをめざすものであります。

今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によつては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が『一人は万人のために、万人は一人のために』という協同組合の理念をよりどころとして、JAへの結集を強め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年こそは災害がなく、豊穡の出来秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の「卯年」となりますよう心から祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

## 謹んで新春の

お慶びを申し上げます

代表理事組合長	山岸 栄一
専務理事	佐々木 修平
理事	土井 清美
理事	藤澤 優悦
理事	金澤 賢昌
理事	佐藤 秀治
理事	坂爪 庄一
理事	柴谷 廣道
理事	工藤 隆博
代表監事	立藏 義春
常勤監事	山口 修
員外監事	橋本 毅
管理部長	平井 繁
内部監査室長	大野 元弘
営農部長	松本 良勝
美原支店長	田中 博
本通支店長	小川 洋二
桔梗支店長	逢坂 勉

# 年頭のご挨拶



生産部会連絡協議会

会長 佐藤 均

新年あけましておめでとうございます。平成二十三年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

部会員及び各関係機関の皆様方には、部会並びに協議会の活動に対し、特段のご理解とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年は、遅い融雪の中、春耕期を迎え、その後、曇天と低温が五月中旬まで続き、播種作業やトンネル作型野菜の品質に大きな影響を与えました。夏は一転して、今まで経験のない猛暑となり、作物の状態や健康管理に、気を配りながらの過酷な農作業となりました。湿度も伴って病害が激発し、人参をはじめ全ての作物に影響しました。特に、馬鈴薯では全道的に減収し、今年の種子馬鈴薯の供給にまで波及しました。米は全国が作況指数が98のなか、100を越え、雑穀類は高温障害で茎長が長くなり収穫作業で苦勞し、収穫物

は小粒傾向で品質・収量が低下しました。

販売全体としては高値で推移し、農家経済を押し上げる結果となりました。しかし、昨年までの販売環境や輸入野菜の事を考えると、依然として厳しいものがあります。

活動では、各部会・協議会の研究会や農業振興計画に係るコントラ事業の先進地視察・市場訪問を行ないました。

今後は、WTO・TPP交渉の行方や、植物工場・農業政策の変化に注視しつつ、遊休農地問題やコントラ事業について関係機関と共に協議を重ね、農家経営の向上と販売ロツトの確保に繋げる必要があると思えます。

本年が、皆様方が、健康で豊穡の秋を迎えられることを祈念して、年頭のご挨拶と致します。

# 年頭のご挨拶



渡島総合振興局渡島農業改良普及センター

所長 前田 和子

新年明けましておめでとうございます。平成二十三年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は春先の低温が一転、記録的な猛暑で、農業ばかりではなく私たちの暮らしは様々な影響を受けました。馬鈴薯が小玉傾向となり、野菜類では着果不良や日焼け果・特異的な病害虫の発生など、農作物や家畜の管理は大変苦勞の多いものでした。道内各地では、小麦、てん菜、たまねぎ、野菜などで二年続きの大きな被害となりましたが、渡島管内においては適切な病害虫防除や管理により、水稲は作況指数104の作柄「良」、野菜類の減収も最小限にとどめることが出来ました。生産者始め関係機関の皆様のご努力に敬意を表します。

さて、昨秋以来、国のTPP（環太平洋戦略的経済連携）加盟に向けた交渉開始が大きな議論となつていきます。国内食料自給率は40%から13

%まで低下、本道経済は2兆円超の損失が見込まれます。「自由化の農業の両立」は十分な議論が必要です。

道南の農業は、地域の条件を活かし春野菜の早出し産地として発展、新たな直売所開設など地産地消の取組も盛んです。交流で育んできた「農業応援団」と共に、これらノウハウを活かした地域農業のビジョンが求められます。

農業改良普及センターは、農畜産物の生産性向上支援はもとより、地域農業支援システムの構築や農業の六次産業化推進等、皆様と共に考え、担い手が希望の持てる地域づくりのお手伝いをさせていただきたいと考えております。

本年が皆様に取りまして健康で希望に満ちた年でありませう心から祈念申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

# 函館市亀田生産部会 連絡協議会

## 視察研修報告

昨年12月7日から8日にて生産部会連絡協議会主催による視察研修が行われ、佐藤会長を含め10名の参加を頂きました。初日は2010年度ポテトフォーラムに参加し致しました。これは主催が(独)農研機構北海道農業研究センター、(財)いも類振興会、北海道馬鈴しよ協議会、日本スナック・シリアルフーズ協会並びに後援として北海道が入っています。その為農水省生産局生産流通振興課を始め、全道から馬鈴しよに携わる人たちが総勢432名が参加し、高品質で収益性の高い馬鈴しよ生産に向けた講演や研究発表が行われました。最初に(独)農研機構北海道農業研究センターバレイシヨ先端遺伝特別研究室長の保坂和良氏の基調講演があり、中国は世界における作付面積の5分の1の面積を占め、生産量は4分の1を占めている。2008年における栽培面積は466万ha、生産

量は7078万tに達し日本の25倍の生産力を持ち(日本9万ha、288万t)国家政策としてバレイシヨ生産に取り組んでいる等、中国の近年の情勢が伺えた。その他研究発表では、4人の講演があり、「寒地資源を利用した野良イモ処理対策」、「耕勝めむる馬鈴しよ栽培の青写真」、「耕畜連携システムを利用した大規模経営モデル」、「馬鈴しよの世界情勢」ジャガイモは世界の成長産業」について発表がなされた。

試験報告については、「エチレンを用いた加工用馬鈴しよ萌芽抑制による高品質貯蔵技術の開発、2009年度産バレイシヨの試験結果」が報告され、エチレンの効果が十分に現れておりました。

翌日の8日はホクレン農業総合研究所へ訪問し、農作物の残留検査についての説明やホクレンが開発した馬鈴しよきたかむいについて説明を受けました。農作物の残留農薬検査では、平成18年度に施工されたポジティブリスト制度に対応するため、北海道内で使用される農薬を基本とした検査を実施すると共に、最新分析装置による信頼性の確保を図って

います。又J.A、関係団体からの受託分析は年間2100点を検査計画としていますが、今年度は計画を超える検査となる見込みです。

続いてきたかむいについての説明を受けました。この品種はイエローシャークを母にとうやを父に2004年からHP01の系統名として試験検討されました。

その結果2007年には優良品種に認定され、きたかむいの名前で現在に至っております。長所は、早生で白肉丸いもで男爵より多収であり、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性で男爵よりも中心空洞が少ない。短所としては褐色心腐が男爵よりも多く、ソウカ病にも弱い等の説明を受けました。当地区でも一部で栽培されていることから、ホクレン担当者より評価について伺われ、実栽培者の参加もあり農家からの意見としては、高評価でありました。ホクレン担当者も喜んでおり、今後は種芋を増やし栽培面積の拡大に期待を寄せられていることでした。

今回の視察については、参加者一同大変参考になった視察研修でした。

## 謹賀新年

函館市亀田農協生産部会

連絡協議会会長  
中レン草長ねき部会

佐藤均

馬鈴薯組合 金澤賢昌

小豆部会 上田幸喜

水稲部会 下山正

大根部会 宇野稔

人参部会 西谷裕義

キャベツ・白菜部会 渋谷進

南瓜部会 西浦克彦

畜産部会 山辺武之

青年部 泉宗伯

女性部 山田栄子

年金友の会 小笠原正幸

貸地貸家組合 山田洋悦郎

青色申告会 紫前雅之

亀田農友会 三上茂

# 役員視察研修報告

昨年11月10日から12日までの3日間、役員11名・職員1名の12名で九州地区の視察研修を実施いたしましたのでご報告を致します。

最初の視察先は、長崎県農林技術開発センター所属・長崎県諫早干拓営農研究部門です。国営諫早湾干拓事業は、潮受堤防での締切面積は3,542ha内農地での利用が815haとなっております。この農地は、県より耕作者がリースで借りる農地り



リース方式を採用現在、個人で25戸・法人等で17件・合計42の経営体が耕作をしております。諫早湾干拓地による営農展開方針は、①生産性の高い農業の展開 ②環境にやさしい農業と、安全・安心な農産物の安定供給 ③周辺地域農業や都市消費者との交流・共生の促進を基本方針と定めている。

部門長のお話によると、作る作物は経営体個々に自由であり灌水設備もしっかりし、又暗渠排水もしっかりしており、野菜を中心になんでも作られており(大根・キャベツ・白菜・玉ねぎ・ブロッコリー・レタス・イチゴなど)、このリース料金は反あたり1万5千円でその他に灌水施設利用料が6千円掛かります。一年間作物を栽培するのが可能ですから生産コストを下げ、収量の増収によって他産地に負けない農業を目標に頑張っているとのことでした。

平らな圃場が大きく広がり、水切れを良くする為、隣地との境界は溝にしており1枚の畑は7haの大きさで誠に見事なものでした。新規就農をした法人等は農業経験が無い事からかなりの苦勞をして経営をしているとの事でしたが、他地区で農業を

れている方は機械施設・農業技術も有り経営内容は素晴らしいとのことでありました。ただ、残念であったのは販売面においては独自のルートで消費者に直接販売している農家が殆どでJAへの出荷は少ないとの事でした。(干拓防潮堤の上を通れなかつたのが残念で、遠くから見ただけでした。)

2ヶ所目は佐賀青果市場の田島部長の案内で、長崎県の馬鈴薯圃場と人參圃場の視察を致しました。圃場は石を積み上げた段々畑、良くこんなキレイに石を並べて管理しているものだと感心致しました。馬鈴薯はまもなく収穫を迎えようとしてお



宅地・建物仲介業務の  
**(株)協同振興サービス**

昨年中は、ご愛顧賜り誠にありがとうございました。本年も皆様からのご利用を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

山 岸 栄 一

専務取締役

佐 々 木 修 平

取締役

平 井 繁

監査役

立 蔵 義 春

監査役

山 口 修

監査役

橋 本 毅

他役員一同

りましたし、人参は収穫真最中でした。馬鈴薯はメークイン・ニシユタカ、人参はタキイ種苗の種を使っているとのことでした。小さな畑を本当に良く管理しておりました。

3ヶ所目は当組合と経営形態が非常に良く似ている、佐賀市中央農業協同組合でした。

正組合戸数59戸・正組合員数128名（1戸複数加入）・准組合員3、800名の構成であり、生産農家は少なく販売・購買の取扱数量は殆ど無いとのことでした。

農協事業の中心は、金融・共済・不動産賃貸であり、これらの事業収益で順調な経営を続けております。佐賀県は11農協が大型合併をして5年経過しておりますが、訪問した佐賀市中央農協はこの合併に参加をしておりません。また、この農協以外にも2農協が合併に参加をしなかったそうです。

佐賀市駅前はこの農協本店事業所があり、正職員33名、臨時職員10名の43名で仕事をしており、金融・共済事業に特化した農協であり、職員にはそれぞれに貯金・貸付・共済のノルマを持ってもらい、達成率による人事考課を実施しているとのことでありました。

また、地域貢献活動にも積極的に取り組み、行政と一体になった駅前再開発プロジェクトへの取り組み、佐賀パルーンフェスタでの朝食サービ

ス、味噌汁・おこわの販売活動、幼稚園児などの「田植え」「稲の収穫」等の体験学習を実施しているとのことでした。

小さな農協ではありませんでしたが基本姿勢がしっかりととして、その事が全職員に良く伝わっている印象を持ちました。

今回、NHKで日曜日放送している坂本竜馬が、長崎で商人から物資を買い付けた建物、「グラバー亭」を視察の合間に見ることができ、その歴史の一端を感じる事ができました。視察報告と致します。



## 理事会報告

### 第13回 平成22年10月27日 理事9名 監事3名

- ① 随時監査の指摘事項について
- ② 随時監査の指摘事項に対する回答について
- ③ 出資金の減口申し込みについて
- ④ 出資金の持分譲渡について
- ⑤ 不祥事対応要領の一部変更について
- ⑥ 金利設定会議要領の一部変更について
- ⑦ 人参選果施設の償却負担割合について
- ⑧ 平成23年度函館市農林予算に対する要望案について
- ⑨ 登録金融機関業務内容方法書の一部変更について
- ⑩ 平成22年度組合員勘定精算期日の延長について
- ⑪ 貸付金担保物件の競売の取りすめについて
- ⑫ 貸付金条件変更の申し込み審査について

### 第14回 平成22年11月26日 理事8名 監事3名

- ① 第三四半期定期監査の指摘事項について
- ② 第三四半期定期監査の指摘事項に対する回答について
- ③ 出資金の減口申し込みについて
- ④ 出資金の持分譲渡について
- ⑤ 地域づくり推進事業交付金（道補助）の申請について

### 第15回 平成22年12月17日 理事9名 監事3名

- ① 随時監査の指摘事項について
- ② 出資金の減口申し込みについて
- ③ 出資金の持分譲渡について
- ④ 専門委員会規程の一部変更について
- ⑤ 利益相反管理方針及び利益相反管理規程の一部変更について
- ⑥ JABANK北海道災害義援金取扱要領の制定について
- ⑦ 平成22年度期中利用割戻しの実施について
- ⑧ 職員に対する決算手当の支給について
- ⑨ 平成23年度コンプライアンスプログラム実践スケジュールについて
- ⑩ 人参洗浄選別施設の入札について
- ⑪ 平成23年度事業計画の策定について
- ⑫ 高額貸付金の申し込み審査について
- ⑬ 貸付金条件変更申し込み審査について

# 年金友の会 活動報告

## ゲートボールクラブ

9月28日に桔梗寿会会場にて、年金友の会ゲートボール大会が行われました。当日は各支部のメンバーが集まり、混成チームを組んで大会は行われました。普段はゲートボールをやりなれていても、大会と名がつくと手に力が入るのか、思うままにならなくて悔しがる場面も見受けられました。それでも、時間がたつにつれ随所に素晴らしいプレーが増えてきました。空の雲行きが怪しくなってきたところでちょうど大会の終了となり、雨にあたることなく1日楽しく大会を終えることができました。22年度も怪我等なく無事に大会を終えることができました。23年度も会員にとって楽しめるようなクラブの活動を予定しています。

## パークゴルフクラブ

10月7日に桔梗高台パークゴルフ場としんの湯にて納会を行いました。午前中に桔梗高台パークゴルフ場でプレーを行い、午後からしんの湯にて表彰式と懇親会を行いました。今大会では、男性と女性の区別なくスコアで順位をつけましたが、それでも男女でありスコアの差がなく、1打で大きく順位が変わる僅差の戦いとなりました。懇親会では、一緒に食事をしたりするだけでなく、カラオケをデュエットしたり音楽に合わせダンスしたりと、皆さま大変盛り上がっていたようでした。今回の納会を通じて、会員間の親睦がさらに深まったようでした。22年度の屋外の大会は今大会で終了ですが、近江パークゴルフ場さんの協力もあり、3月までは第3木曜日に近江パークゴルフ場にて屋内の大会を行っています。23年度も、月に1回程度の大会の開催を予定しており、会員みんなが楽しめる活動を予定しています。

## 秋の懇親会

10月15日に湯の川温泉ホテル万惣で、全支部合同の懇親会が行われました。各支部から合計で80名もの方にご参加いただきました。今回は総会のようになにか会議をとまなうものではなく、純粋に全支部の会員間の親睦を深めるために行われました。食事が一段落した頃には、お楽しみゲームとして全員参加の抽選会を行いました。当たりの景品がお米ということもあってか、皆さま真剣な面持ちで参加されていました。その後は、カラオケと参加会員による余興の披露もあり、会場は大盛り上がりとなりました。23年度も総会等の開催を通じて、全支部間で会員の親睦が図れるような活動を計画しています。



## 年金友の会 会員募集

年金友の会では会員を随時募集しております。入会資格は現在当農協で年金を受給している（または将来受給予定）ということだけです。

あわせて、植物愛好会・釣りクラブ・ゲートボールクラブ・パークゴルフクラブの4つのクラブも随時会員を募集しております。

